

# 嘘の放送をしたNHK NHKは録画録音記録を裁判所に提出せよ

原告・屏東県牡丹郷老人会理事長

陳 清福



取材時の写真を見せる陳清福氏  
(9月17日、司法記者クラブ)

その翌日にNHK・JAPANデビュー裁判の第四回公判を控えた九月十六日、台湾からパイワン族の指導的立場にある華阿財氏に伴われ、高許月妹さんの通訳などを務めた陳清福氏が来日し、また柯徳三氏と番組に出演した日本語世代の藍昭光氏も別便で来日した。

東京地裁一〇三号法廷で開かれた公判では、陳氏と藍氏の「意見陳述書」が提出され、原告の陳氏は日本語で陳述書を読み上げた。ここに掲載して紹介したい。

その後、三人は地裁内の司法記者クラブで高池勝彦弁護士長らと記者会見し、陳述書のポイントを説明した。会見後はNHK前の街頭宣伝活動にも参加、特に華氏と陳氏は街宣車からNHKの非を訴え、さらにその夜は渋谷区内で開かれた支援集会でもNHKがいかにひどい取材を行ったかを詳しく訴えた。

(本誌編集部)

一 私は、NHKの人達を三日間にわたって接待し、高士村(クスクス村)を案内し、高許月妹さんらを引き合わせました。

NHKの人達は近くのホテルに泊まっていて、三日間にわたってクスクス村に通って来ました。私は、その間村の各所を案内し、昔あった神社の跡地も案内して行きました。そして、その神社を再建するのが私の夢であると話しました。そのほか、戦前の日本人は良い人が多かったと言いました。日本人のことをほめればNHKも日本人だから喜ぶと思ってくれましたし、本当のことだったから一生懸命に話をしましたし、接待したのです。

NHKの人は熱心に聞いてくれてるように思いました。カメラ撮影や録音もしておりました。

二 私自身少年時代を日本人として育ち、日本語もしゃべれ

ますし、日本には良い感情を抱いております。三日間も取材を受けたのですから、神社再建のことははじめ、日本に対する良い思い出話をたくさん話したのに、それは全く放送されませんでした。

私は、NHKの人から「人間動物園」とか「展示」とか「見せ物」という言葉は聞いておりません。そのような言葉を聞いたら、私もパイワン族の一人ですからびっくりするし、腹が立ちますから覚えてはるはずで。

私が放送に出たのは、私の自宅の中で、NHKの人が高許月妹さんに話を聞き、その返事を私が通訳したときの言葉だけでした。

その言葉もねじ曲げられて放送されました。高許月妹さんが、父の思い出について、「懐かしい。(父とはあまり話をしなかった)ので、父のことは)余りよく分からない。父のことはとても話しきれない」などという言葉を通訳したのです。放送では、高許月妹さんの父親が人間動物としてイギリスで見せ物にされたことについての言葉という誤解を与えるようになっていきます。また、私の通訳した「話しきれないそうだ。悲しいね。この話の重さね、話しきれないそうだ。言いつれない」の中で出てくる「悲しい」というのは「懐かしい、愛しい」という意味ですし、「この話」というのは、パイワンの人達が人間動物扱いにされたことを言うのではなく、

高許月妹さんの父とのいろいろな思い出のことを言っているのです。

三 私は、顔も名前も出てきませんから、私が通訳した言葉は、直前に顔が出ている高許月妹さんの兄の許進貴きよすすきさんの言葉だと誰でも誤解します。NHKは、兄妹そろって父親が惨めな経験をしたことを悲しがつているとわざと誤解させる嘘の放送をしたのです。

四 NHKの放送では、私が通訳だと言っていないながら、私の名前は全く出ず、また、通訳としての報酬は全くいたたいておりません。報酬についての契約など無かったのは事実ですが、我々パイワン族の間では、そんな契約などしなくても、働かせた場合は、謝礼を渡すのが常識です。私が知っている昔の日本人は、約束していないから金は払わないなどという言い逃れは決してしませんでした。

五 高許月妹さんの名前は、本人がはっきりとNHKに言っておりま。高許月と自己紹介したことは絶対にありません。そんなことがあったら、私がびっくりしてしまいます。

六 以上述べたことが正しいかそうでないかは、NHKの録画録音を調べればすべて分かることです。私はNHKが高土村で録画録音したすべての記録を裁判所に提出することを要求します。

二〇一〇年九月十六日